

## 「視覚・聴覚刺激を用いた眼球運動による視覚探索」の研究へのご協力をお願い

人は加齢に伴い、集中できなくなるなどの注意能力が低下する可能性があり、退院後の生活にも大きく影響すると考えられます。音や光に対して注意を向けることができているかという点について、様々な疾患で眼球運動に注目して比較しているものは少ないため、今回脳卒中の患者さん、整形疾患の患者さんを対象に、音・光に対しての視覚探索の検査を行い、その正答率と反応時間を調査したいと思います。

### 1. 対象

平成 31 年 1 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日の期間に当院回復期病棟に入院された、脳卒中患者さん。対照群として脳損傷の既往がない整形疾患の患者さん、及び患者さんのご家族。

### 2. 方法

椅子の前に半円形に並べたスピーカーのいずれか 1 つから音が出ます。音が聞こえたら以下の 2 つのうちどちらかで答えていただきます。

①被験者の方に眼球運動を測定する機器を頭に装着していただき、顎台の上に顎をのせ、頭が動かないように固定させていただきます。音が聞こえたら、聞こえたと思うスピーカーの方に視線を向けていただきます。

②音が聞こえたらボタンを押し、そのスピーカーから音が出たか答えていただきます。約 5 分の試行を音刺激、光刺激で 2 回行います。練習や説明も含め、所要時間は全体で約 30 分ほどです。

### 3. 研究における倫理的配慮

本研究は、音を聞いて音源の方向を判断する実験であり、基本的には被験者の方への侵襲はありません。しかし眼球運動装置を装着して視線で回答していただく場合、頭・目の圧迫感が生じることがあります。また、事前の聴力検査でヘッドフォンを装着していただくため、稀に耳の圧迫感や閉塞感が生じることがあります。実験で疲労を感じた場合は、静かな部屋で休息していただきます。得られた個人情報全て匿名化し、個人情報が外部に漏れることがないように厳重に管理します。研究の成果は学会や学術論文にて発表させていただくことはありますが、その際も個人が特定されることはありません。情報流出防止のため、研究実施後はデータを廃棄します。研究にご協力いただけない場合でも、被験者の方が不利益を被ることはありません。

ご不明な点がありましたら、以下までご連絡ください。

#### 【連絡先】

浅ノ川総合病院 リハビリテーションセンター 作業療法士

実施責任者 富坂汐理（とみさかしおり）

電話 076-252-2101 内線 5211